

明治以降、日本社会の近代化が急速に進む中で、美術の世界にも、西洋からの大きな波が押し寄せました。彫刻もその例にもれず、伝統的なものと新しく入ってきたものとのせめぎ合いの中で、様々な素材や技法が用いられるようになり、現代に至るまでその表現は広がり続けています。ここでは、それぞれに独自の表現を求めて制作された国内作家の作品を紹介します。山本豊市(1899-1987)は、戦時中でも比較的手に入りやすかった漆を素材に、独特の柔らかな風合いで、フランス留学時に師事したマイヨールを思わせる丸みを帯びた豊かな女性像を表現しています。川原竜三郎(1940-2012)は、西洋彫刻の伝統的な技法である蝸型鑄造(蝸で原型を作って型を取り、金属を流し込む技法)を留学先のイタリアで学び、細部まで表現できるその特性を生かし、人物のみならず周囲の情景までも取り込んで細やかに表現しています。保田井智之(1956-)は、木やブロンズなど異なる素材を組み合わせ、従来の彫刻の技法にとられない制作方法により、独特の人物像を表現しました。金属の質感が木の柔らかさを際立たせ、優美なフォルムを生み出しています。様々な背景のもと、素材や技法、表現を追求した作家たちの作品をお楽しみください。

## ■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	清水 良治	1935～	運ぶ人	1975(昭和50)	43.1×31.6×41.8	ブロンズ
2	山本 豊市	1899～1987	みのり	1972(昭和47)	218.0×65.0×30.0	うるし、砥の粉、麻
3	川原 竜三郎	1940～2012	太陽と収穫	1977(昭和52)頃	49.5×58.5×32.5	ブロンズ
4	保田井 智之	1956～	cascade	2009(平成21)	78.0×50.0×17.0	青銅、木

## パブリックゾーン

## イタリア彫刻—人のかたち—

## ■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	ウンベルト・マストロヤンニ	1910～1998	イダの肖像	1943	49.0×28.0×16.0	ブロンズ
2	ジャーコモ・マンズー	1908～1991	インゲの胸像	1980	104.3×116.1×55.1	ブロンズ

※1階エントランスホールに展示。